

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和元年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム」

研究開発領域

「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための
市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計」

Project title “Ensuring the Benefits of AI in Healthcare for All:
Designing a Sustainable Platform for Public and Professional
Stakeholder Engagement”

山本 ベバリーアン

(大阪大学人間科学研究科 教授)

Principle Investigator: Beverley Anne Yamamoto

(Professor, Graduate School of Human Sciences Osaka
University)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	2
2-3. 会議等の活動	5
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	6
4. 研究開発実施体制	6
5. 研究開発実施者	6
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	7
6-1. シンポジウム等	7
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	7
6-3. 論文発表	8
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	8
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	8
6-6. 知財出願	9

WP4.医療へのAI導入におけるステークホルダーの識別		←→		
WP5. 市民/患者/医療関係者のフォーカスグループ研究			←→	
WP6.ステートメントリストの生成と評価				←→
WP7.ステークホルダーのエンゲージメントプラットフォームの開発		←		→

(2) 各実施内容

今年度の到達点

最初の2つの実施項目（「WP1. 両国間調整と発信・普及戦略」と「WP2. 市民と患者の関与パネル」）で今年度に予定している複数の小項目の内容の実施。

実施項目WP1. 両国間調整と発信・普及戦略

小項目

D1.1：日本側メンバーでキックオフミーティングを行った。日本と英国の共同での本格的なキックオフミーティングを、3月に大阪大学において開催することを予定していたが、新型コロナウイルスの状況により止むを得ず中止した。その代替りとして、オンラインでのキックオフミーティングと定期的なミーティングを4回行った。大阪大学にてプレスリリースを行うことも予定していたが、新型コロナウイルスの関係で次年度に延期を行なった。

D1.2：代表者とプロジェクト・マネジャーとの定期的なミーティングを行い、Data Management Plan and Publication Policyをほぼ完成した。

D1.3：Microsoft Teamsのteamwork hubの設定を行なった。ファイル共有、チャット機能、ビデオ会議機能などにより、大阪大学とオックスフォード大学のコミュニケーションや情報共有をスムーズに頻繁的に行っている。

実施項目WP2. 市民と患者の関与パネル

小項目

D2.2：市民や患者団体による関与パネルの設立、研究、貢献と評価方法に関する検討を行なった。イギリス側と日本側におけるリクルート戦略については、リクルートのための告知用チラシと”Welcome Pack”文書の作成を行なった。

(3) 成果

今年度の到達点

最初の2つの実施項目（「WP1. 両国間調整と発信・普及戦略」と「WP2. 市民と患者の関与パネル」）で今年度に予定している複数の小項目の内容の実施。

実施項目WP1. 両国間調整と発信・普及戦略

小項目

D1.1：日本側メンバーのキックオフミーティングでは、大阪大学で実施中のAIホスピタル事業の複数の分野に応じて「AI」の意味合いが異なる内容で使い分けられていることや、AIという言葉の意味の受け取り方が人によって異なることから、本プロジェクトを患者や市民に向けて発信する前に、本プロジェクトでのAIの言葉の定義を決定しておくことが必要であることがメンバーに共有された。

日英でのミーティングでは、わかりやすく親しみやすい本プロジェクトの略称を検討した結果、「AIDE（エイド）プロジェクト」と決定し、次年度以降にロゴ作成等を行なってウェブサイト等に使用することとした。

D1.2：代表者とプロジェクト・マネジャーとの定期的なミーティングを行い、Data Management Plan and Publication Policyをほぼ完成した。

また、倫理審査の申請については、ツイッター分析を含めた内容でそれぞれの大学で申請を行い、申請書類一式を互いに確認することとした。

D1.3：Microsoft Teamsのteamwork hubの設定を行なった。この設定により、WPごとに異なる担当研究者が、各自のチームのチャンネルを使い分けることによって、意見交換や情報共有がスムーズに行えるようになった。

実施項目WP2. 市民と患者の関与パネル

小項目

D2.2：市民や患者団体による関与パネルの設立に関して、日英の研究チームで検討した結果、日本と英国とでは前提となる環境の相違が予想以上に大きいことが明らかになった。例えば英国ではINVOLVEなどの一般的な市民パネルが社会的に既に形成されており、本プロジェクトのパネル設立のための候補者は、そのような市民パネルから募集が可能である。しかし日本では一般的な市民パネルの組織が存在しないため、本プロジェクトのために大学附属病院の患者などに募集をかけ、一から構成していく必要がある。これら日英におけるパネルの母集団の構成やレベル等の違いを考慮に入れて、今後の研究・評価方法等を検討していく必要があることが、再認識された。

さらに、日本側のパネルはR2年度の前半に実際のリクルートを行う予定であったが新型コロナウイルスの状況により、大阪大学附属病院でのリクルート戦略を見直す必要がでてきたため、次年度のはじめから検討することとした。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

現在の進捗については、当初対面で予定していたミーティングをオンライン化することで、概ね順調に進行している。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2020.1.8	大阪大学およびオックスフォード大学の共同研究者ミーティング	Zoom ミーティング	採択後の日英コアメンバーによる Planning meeting
2020.1.28	日本側メンバーキックオフミーティング(第1回AIDEミーティング)	大阪大学吹田キャンパス	日本側メンバーへの本プロジェクト採択に関する報告と、今後の計画についての意見交換
2020.1.28	第2回AIDEプロジェクト阪大及びオックスフォード大学研究者ミーティング	Zoom ミーティング	日英コアメンバーによるキックオフミーティング
2020.2.16	第3回AIDEプロジェクト阪大及びオックスフォード大学研究者ミーティング	Teams ミーティング	日英コアメンバーによる意見交換
2020.2.26	山本代表とオックスフォード大学の分担研究 Nisha Sha との打ち合わせ	Academy of Medical Sciences, London W1B 1QH	両国の研究進捗等についての情報交換
2020.3.18	第4回AIDEプロジェクト阪大及びオックスフォード大学研究者ミーティング	Teams ミーティング	日英コアメンバーによる意見交換

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

情報発信や成果発表の場として、ウェブサイトの構築を行うこととし、具体的な内容について、日英コアメンバーを中心に検討を開始した。

4. 研究開発実施体制

研究統括・実施グループ（山本ベバリーアングループ）（単一グループで実施）

- 大阪大学大学院 人間科学研究科
- 大阪大学大学院 医学系研究科
- 大阪大学附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター
- 大阪大学大学院 法学研究科
- 大阪大学 データビリティフロンティア機構

山本ベバリーアンは研究代表兼グループリーダーとして本研究全体を推進し、日英間の調整を行いながら、社会科学の研究手法が中心となる項目を担当する。医学系研究科と附属病院の分担者は、持続的プラットフォームの実質的な活動の場となる病院での人的・物理的環境整備を行う。法学研究科とデータビリティフロンティア機構の分担者は、情報・プライバシー保護の法的倫理的視点での項目を担当する。

5. 研究開発実施者

研究統括・実施グループ（山本ベバリーアングループ）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山本 ベバリーアン	ヤマモト ベバリーアン	大阪大学	大学院人間科学研究科	教授
加藤 和人	カトウ カズト	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
木村 正	キムラ タダシ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
西田 幸二	ニシダ コウジ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
松村 泰志	マツムラ ヤスシ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
武田 理宏	タケダ トモヒロ	大阪大学	大学院医学系研究科	准教授

山本 洋一	ヤマモト ヨウイチ	大阪大学	附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター	教授
福田 雅樹	フクダ マサキ	大阪大学	大学院法学研究科	教授
山本 奈津子	ヤマモト ナツコ	大阪大学	データビリティフロンティア機構/大阪大学大学院 医学系研究科	特任講師
古結 敦士	コゲツ アツシ	大阪大学	大学院医学系研究科	博士課程学生
Amelia Katirai	アメリア カテライ	大阪大学	大学院人間科学研究科	博士課程学生
Kang Seongeun	カン ソンウン	大阪大学	大学院医学英研究科	博士課程学生

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

・

(2) ウェブメディアの開設・運営

・ プロジェクトのウェブメディアの開設 (日本側)

<https://aide.osaka.jp/>

8月26日公開予定

(3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

1. AMS-JSPS-AMED Joint Symposium on Data-Driven Health: Data strategies to predict risk, prevent and manage disease in individuals and populations.

Session 2: Health data for public health

(Presentation 7) Involving patients in research

Speaker: Professor Beverley Anne Yamamoto, Osaka University

Date: 2020.2.26

Location: Academy of Medical Sciences, 41 Portland Pl, Marylebone, London W1B 1QH.

2. University of Montreal/U7+ Summit, Osaka University

Introducing the AIDE Project: AI in healthcare: Designing for stakeholder Engagement

Speaker: Beverley Anne Yamamoto

Date: 2020:2:26

Location: Osaka University

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0 件)

●国内誌 (0 件)

.

●国際誌 (0 件)

.

(2) 査読なし (0 件)

.

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

(2) 口頭発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

(3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

Panel Submission accepted to the Future Health and New Technologies:
Opportunities and Responsibilities, HeLEX Conference.

Panel title: Enhancing key stakeholder involvement in medical research, health care
and policy making: Four projects from Japan.

Beverley Yamamoto, Kazuto Kato and Atushi Kogetsu, Nao Hamakawa

Location: Keble College, University of Oxford. 2020.

→新型コロナウイルスの状況によりキャンセルされた。

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (0 件)

.

(2) 受賞 (0 件)

.

(3) その他 (0 件)

.

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

.

(2) 海外出願 (0 件)

.